

第2回「日本語体験コンテストinバンコク」 実施報告書



前列左より 寺井支店長(ANA バンコク支店)、小林参事官、越前谷実行委員長、江副審査委員長、新妻審査委員
後列左より コンテスト入賞者 5 名 SUPPATTRA SAKORNSATIT, WIPADA SAKORNSATIT, JAKKRIT SANTUDWATTANA,
NATTHA SREEKUAKUL, CHONLAKORN PHAERATTANAKUL

- 【実施日】 2014 年 9 月 18 日 (木) 予選会 12:00~ 本選会 14:00~
【会場】 タイ・バンコク市 パトゥムワン プリンセス ホテル
【主催】 一般財団法人 共立国際交流奨学財団
【現地運営団体】 J-Study center
【後援】 在タイ王国日本国大使館
全日本空輸株式会社バンコク支店
【協賛】 株式会社 共立メンテナンス



＜総評＞

昨年度から開催しております、「日本語体験コンテスト in バンコク」は、今年度無事に第2回目を開催することが出来ました。

今年度は9月18日(木)タイ・バンコク市において、第2回「日本語体験コンテスト in バンコク」を開催致しました。

予選会では、日本の政治、経済、文化、文学、歴史、地理、社会、流行などについての聞き取り問題30問を日本語で出題し、日本語能力だけではなく日本についての知識を試しました。高得点を獲得した17名が予選会通过、本選会のスピーチコンテストへ進みました。

本選会では、その場で出された3つのスピーチ課題、①わたしが日本人に紹介したいタイの有名人は・・・②私が訪れてみたい日本の世界遺産は・・・③私が社長だったら、日本企業と一緒に作りたものは……。以上の課題から1つを選択し、5分のシンキングタイムの後、3分間の即興スピーチを行いました。

審査委員3名による審査の結果、5名が入賞し、実行委員長より賞状と賞品目録を授与されました。入賞賞品は、「夢・日本体験賞」で、2015年1月19日(月)～1月27日(火)(8泊9日2泊機中泊)の日本体験旅行に招待致します。

この日本体験旅行で、日本留学の為の第一歩として日本を理解し、最終的に日本留学をして、将来日本・タイ両国の発展に貢献する人材となることを願っております。

＜実施報告＞

■ 予選会

予選会	12:00～12:05	開会の辞・注意事項説明
	12:05～	予選 (日本語聞き取り問題30問)

日本の政治、経済、文化、文学、歴史、地理、社会、流行などについての聞き取り問題30問



受け付けでは、日本の学校パンフレットを配布しました



予選会の様子



■ 本選会

本選会	14 : 35～14 : 35	予選通過者発表（17名）
	14 : 45～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	14 : 55～15 : 00	スピーチ準備
	15 : 00～	スピーチ

予選通過者： 17名 ⇒ 入賞者： 5名

課題： ①わたしが日本人に紹介したいタイの有名人は・・・
 ②私が訪れてみたい日本の世界遺産は・・・
 ③私が社長だったら、日本企業と一緒に作りたものは・・・



スピーチ準備5分間のシンキングタイム



3分間の即興日本語スピーチ

■ 表彰式

表彰式	17:00～	「夢・日本体験賞」発表（5名）
-----	--------	-----------------

式次第

- 一、開会の辞
- 一、実行委員長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、審査委員長講評
- 一、賞状授与
- 一、閉会の辞



実行委員長挨拶
越前谷 明子委員長より



審査委員長挨拶
江副 隆秀委員長より



来賓挨拶 小林様
在タイ日本国大使館 参事官



来賓挨拶 寺井様
ANA バンコク支店長



入賞者5名に賞状と目録を授与

【入賞者】『夢・日本体験賞』



左より コンテスト入賞者 5 名 SUPPATTRA SAKORNSATIT, WIPADA SAKORNSATIT, JAKKRIT SANTUDWATTANA, NATTHA SREEKUAKUL, CHONLAKORN PHAERATTANAKUL

氏名	所属学校
ウィパダー サーコンサティット WIPADA SAKORNSATIT	Rangsit University
ナッター シーグアグーン NATTHA SREEKUAKUL	University of The Thai Chamber of Commerce
ジャックキット サントッドワッタナ JAKKRIT SANTUDWATTANA	Old Japan Students Association Thailand
ションラコン ペーラッタナケン CHONLAKORN PHAERATTANAKUL	Chulalongkorn University
スッパッターラー サーコンサティット SUPPATTRA SAKORNSATIT	Thammasat University

入賞者 5 名には入賞賞品として、2015 年 1 月 19 日（月）～1 月 27 日（火）（8 泊 9 日 2 泊機内泊）の「夢・日本体験賞」（日本体験旅行）に招待致します。



講 評



審 査 委 員 長 江 副 隆 秀

学校法人 江副学園 理事長

去る 9 月 18 日に開催された共立国際交流奨学財団主催の「第 2 回日本語体験コンテスト in バンコク」に審査員の一人として参加した。

バンコクでの開催は 2 回目で、それなりの知名度は上がっていて、応募者も多数いた。

ただ、一つ残念なことがあった。

それは、一部の大学で偶然、日本語体験コンテストが開催された 18 日に学生が出席しなければならない事象が発生し、そこから申込をしていた学生達が集団で参加できなくなってしまったことだった。

もっとも、その結果、合格の倍率は低くなり、「日本行きの機会が近づいたので頑張ります」と張り切っていた学生もいた。


その後、コンテストが始まると、日本語力が高い学生も多くいて、審査そのものは難しい側面があった。

学習者の中には長く勉強している者から、日本語を勉強し始めてさほど時間が経っていない者まで幅広くいたが、意外に学習時間が短い学生でも高得点を取っている例もあり、単純に学習時間だけが日本語能力に直結するわけではないと思われた。

ただ、学習期間というのは、週 3 回学習の 1 年間は 1 年間、週 1 回学習を 3 年間すれば 3 年だ。深く考えると、年数としての学習期間と実質学習時間は異なるだろう。その意味では、参考程度で考えるべきだったのかも知れない。しかしながら、書類上、さほど学習していない学生が日本語を駆使して自分の言いたいことを一生懸命話す姿は、感動的だった。

今回は、バンコクの後で上海を回った。以前は、韓国でのコンテストに審査員として参加させていただいたこともあった。

面白いのは、コンテスト一つでも、国民性が現れるということだ。自己主張が強い国の学生は話が長くなる傾向がある。その点、印象としてだが、日本人に近く、控えめな性格の人が多いタイの学生達の発表は、短いものが多かった。中には短すぎるのではないかというのもあったぐらいだ。その短さが、日本語力のせい、性格のせいと問われると、私の印象としては、性格のせいプラス経験が少ないことを自覚している若さではないかと思っている。自己主張を極端に表さない控えめさが、どこか共感を呼ぶコンテストだった。





講 評



審査委員 新妻 里紗


共立財団日本語学院 教員

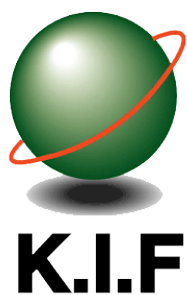
今回初めて、「日本語体験コンテスト in バンコク」の審査員を務めさせていただきました。タイでの開催は2回目ということで、このような貴重な機会に、皆さんのスピーチを聞くことが大変光栄です。

さすが微笑みの国ですね。ステージでの発表者は、緊張しながらも笑顔を絶やさず、ユニークなスピーチをしていたのが非常に印象的でした。また、スピーチ内容にタイの国王の登場回数が多く、スピーチにも国柄が感じられました。その反面、全体的にスピーチに不慣れな印象を受けました。3分間という決められた時間内でのスピーチですが、平均2分くらいでスピーチを終了する発表者が多くみられました。せっかく3分という長いようで短い貴重な時間を与えられていますから、結論と理由を簡単に述べるのではなく、理由や意見の部分を詳しく聞きたいというのが本音です。発表者が話しているスピーチで、聴衆がその内容を想像できるようなスピーチをしていた発表者が入賞していました。

スピーチの第一歩は、人前で話すことに抵抗をなくすことから始めなければなりません。教える側の立場としては、普段の授業から人前で話すことに慣れさせ、自分の意見や主張を述べるための話の運び方、筋道を立てて話すことを教授していかなければいけないと改めて感じました。

「日本語体験コンテスト」は、日頃の日本語学習の成果を発表できるいい機会ですから、次回もたくさんの日本語学習者が応募し、自らの日本語能力で日本への旅行を手に入れることを期待しております。





一般財団法人 共立国際交流奨学財団

所在地：〒101-0021

東京都千代田区外神田 2 丁目 18 番 8 号

TEL：03-5295-0205

FAX：03-5295-0206

URL：<http://www.kif-org.com>

